

はじめに

元号が令和となって早や一年が過ぎようとしています。平成から令和に至るまでの30年余を経て、障害のある児童生徒をめぐる学校教育の状況は大きく変化をしています。

大きな変化の一つとして、自閉症・情緒障害特別支援学級については、平成元年度に102名（当時は情緒障害児学級）であった県内の在籍人数が、令和元年度については1,162名と10倍以上に増加し、障害に応じた特別な教育課程を実施するための専門性がより多くの教員に求められるようになりました。

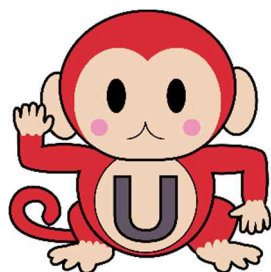
また、通級による指導についても、平成5年に制度化された段階では全国で12,259名であった対象児童生徒数が、対象障害種の拡大もあり平成30年度には122,587名まで増加するなど、こちらも障害に応じた特別な指導を実施するための専門性がより多くの教員に求められるようになっていきます。

さらに、これまでは障害に応じた特別な指導が教育課程上に位置付けられていなかった高等学校においても、平成30年度より通級による指導が制度化され、これまでに県内で3校が実施し、令和2年度にはさらに1校が実施すべく準備をすすめており、専門性を有する教員が必要とされています。

特別支援学級を担任する教員にとっても、通級による指導を担当する教員にとっても、専門性を身に付ける上で、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導である自立活動の考え方を理解することがまず必要です。

そこで県内で実際に行われている自閉症・情緒障害特別支援学級や通級による指導の実践事例を多数掲載した冊子を作成しました。本冊子に記載された事例をもとに、まずは自立活動とは何かを理解していただき、目の前の児童生徒一人一人にとって必要な障害に応じた特別な指導の内容を検討するために活用ください。

最後に、取組事例や資料を提供いただきました市町村教育委員会及び各学校の皆様に対し、お礼を申し上げます。



高知県教育委員会 特別支援教育課
マスコットキャラクター
「ユニバーさる」

令和2年3月
高知県教育委員会

目次

	ページ
第1章 自立活動について	
1 自立活動の意義と指導内容の取扱い	1
2 自立活動の内容【6区分27項目】	3
3 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）	4
4 （注釈入り） 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）	5
第2章 具体的な実践事例	
1 個々の実態に応じた学習の工夫	
（1）小学3年生：特性、特に強みを生かす学習や環境整備	7
（2）小学4年生：今、困っていることを解消するための学習	10
2 授業での工夫	
（1）小学2年生：すごろく大会をしよう①	12
（2）小学6年生：ダンスを友達に教えよう	14
（3）小学6年生：役割や演技を通して学ぼう	15
（4）異学年、複数への指導：ゲームを作ろう	16
（5）異学年、複数への指導：すごろく大会をしよう②	17
（6）中学3年生：お金の使い方を知ろう	21
（7）高等学校3年生：他者とのよりよいコミュニケーションの仕方	22
（8）高等学校2年生：気持ちのコントロール	23
3 集中しやすい環境づくりの工夫	25
4 「わかる」「できる」につなげる工夫	27
5 教材	29
第3章 資料	
1 個別の教育支援計画	31
2 チェックリスト	40
3 既存の情報を有効に活用する	44

引用・参考文献

第1章 自立活動について

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）総則、第1章第4の2の（1）のイの（ア）において、**特別支援学級**における特別の教育課程について「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動を取り入れること。**」と定められています。中学校学習指導要領総則においても同様の記載があります。

また、**通級による指導**における特別の教育課程として、小学校学習指導要領総則第1章第4の2の（1）のウでは、「障害のある児童に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。**（抜粋）」とあり、中学校学習指導要領総則においても同様に定められています。

このように、特別支援学級及び通級による指導において、自立活動の指導を行うことは必須です。

1 自立活動の意義と指導内容の取扱い

平成30年3月に出された特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）においては、以下（抜粋）のように示されています。これ以降の文中に示す「p〇〇」は同書を参照ください。

（1）自立活動の意義（p21）

小・中学校等の教育は、幼児児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められている。そして、その教育の内容は、幼児児童生徒の発達の段階等に即して選定されたものが配列されており、それらを順に教育することにより人間として調和のとれた育成が期待されている。

しかし、**障害のある幼児児童生徒の場合は、・・・同じように心身の発達段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えない。個々の障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となる。**小・中学校等と同様の各教科等に加えて、**特に自立活動の領域を設定し、それらを指導することによって、幼児児童生徒の人間としての調和のとれた育成を目指している**のである。

（2）自立活動の内容（p21～22）

自立活動の内容は、**人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素**

と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素の2つがあるとされ、これらは心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものであり、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割とされています。

(3) 自立活動の指導 (p 23)

自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に即して指導を行うことが基本です。

(4) 指導内容と取扱い (p 24～25)

大切な留意点として以下の2つが挙げられています。

- ・ 指導すべき課題を明確にする。
- ・ 6区分27項目すべてを取り扱うものではない。個々の幼児児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものである。(本書第1章2を参照)

ここまでのまとめとして、自立活動の指導は個々に違う課題に対する指導であり、オーダーメイドの指導が必要であること、また個々に違う課題に対して、指導を行う教員が家庭や他の教職員から情報収集しながら目標や指導内容を設定し行う必要があります。

個々の課題について考える場合、現在困っていることだけではなく、将来にわたって身につけておくといふことは何かも併せて考え、優先順位をつけて取り組むことが重要です。

例えば集団参加が難しい児童の場合、教師の配慮として落ち着いて活動ができるよう、パーティションで区切った場所を利用する場合がありますが、将来を見据えると、パーティションがなくても活動できる場面が増えるよう、あわせて支援の方法を考える必要があります。支援の方法を考える上では、友達と一緒にいると邪魔される感じがするとか、周囲が気になって集中しづらいなど、子ども自身が何に困っているのか、理由を聞いたり探ったりして対策を考えることが必要です。その際には、スムーズにできる場面に目を向けると、良い方法を発見できる場合があります。

このような考えを具体的に記述していく方法を、p 28から様式とともに示しています。本書でも留意点等を含んだ様式を第1章3で取り上げていますので参考にしてください。

2 自立活動の内容【6区分27項目】（p50～102）

区分	項目
1 健康の保持	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事。
2 心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> (1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
6 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

3 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集					
	②-1 収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
②-2 収集した情報（①）を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階						
※各項目の末尾に（ ）を付けて②-1における自立活動の区分を示している。						
②-3 収集した情報（①）を〇〇年後の姿の観点から整理する段階						
※各項目の末尾に（ ）を付けて②-1における自立活動の区分を示している。						

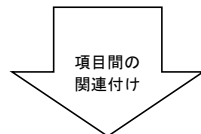
指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階					
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階					

⑤ ④に基づき設定した指導目標（ねらい）を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	
-----------------------------	--

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標（ねらい）を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション



⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント					

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...	
-------------------------	---	---	---	-----	--

4 (注釈入り)
実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

・困難なことのみでなく、長所や得意としていることも記載する。
 ・保護者や心理学、医学、支援を受けている福祉施設などの立場からの情報も収集できるとよい。
 ・得られた情報を実際の指導に生かされることが大切。

【収集する情報の例】
 病気等の有無や状態、生育歴、基本的な生活習慣、人やものとのかわり、
 心理的な安定の状態、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、身体機能、視機能、聴覚機能、
 知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障害の理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、
 特別な施設・設備や補助用具(機器を含む。)の必要性、進路、家庭や地域の環境、保護者の教育に対する考え等
 * 本書第3章資料のチェックリストで強み弱みを整理することも有効です。

p107

実態把握

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
全体像を捉えて整理するために、①の内容が、自立活動の区分のどこに当たるか、振り分ける。					

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

これまでの学習状況の視点から、なぜそのような状況にあるか、既にできていること、支援があればできることなども記載する。

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

個別の教育支援計画(本書第3章資料)の卒業後または3年後の姿などを参考に、本人や保護者の意見を尊重しながら、将来に対して今のようなことが必要か、卒業までにどのような力をどこまで育むとよいのかを調整・整理する。

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している。

交流学級の担任等、関わりのある複数の教職員で検討する。

p108~

指導すべき課題の整理

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

指導開始時点までの学習の状況から課題となることを抽出する。「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」などで整理する。何に注目して課題の焦点化を行うかの視点を整理、共有する。

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

③の課題同士の関連(「原因と結果」、「相互に関連し合っている」などの観点、発達や指導の順序)など因果関係の整理をする。

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

p110

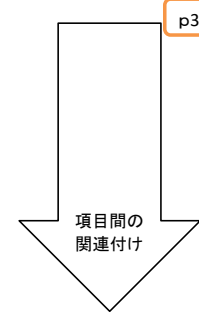
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

個別の教育支援計画や個別の指導計画との関連を意識しながら、長期の指導目標(～ができる)を記載する。
短期の目標が達成されて、それがやがて長期の目標の達成につながるという展望が必要。
短期の目標の展望を描く際には、④を参考に6区分27項目の中から必要な項目を選定するとわかりやすい。

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

p110

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	27項目から選定した項目を記載する。 幼・小・中・高と継続的に指導していく過程で指導内容の重複や欠落がないようにする。					



p30

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

何をすれば⑤の目標が達成できるか文章を分析し分けて考える。⑤の指導目標で「～ができる」ために、⑦のポイント(=根拠)にのっとって項目と項目を関連付けると⑧の指導内容ア～となる。
④で行った課題同士の関連や整理を振り返りながら検討する。

⑥と⑧を結ぶ線は、⑥の各項目と関連する⑧の具体的な指導内容とを結んだものとなる。

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

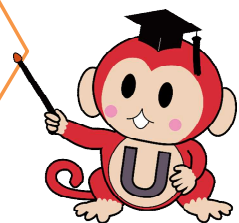
p111～

	ア	イ	ウ	...
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容、方法、手立てを記載する。 【配慮事項】 ア 幼・小・中 主体的に取り組む指導内容 イ 小・中 改善・克服の意欲を喚起する指導内容 ウ 幼・小・中 発達の進んでいる側面をさらに伸ばすような指導内容 エ 幼 自ら環境と関わり合う指導内容 オ 小・中 自ら環境を整える指導内容 カ 小・中 自己選択・自己決定を促す指導内容 キ 小・中 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容			

* ページ数は、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)平成30年3月による

作成の目的をしっかりとおさえて記入しよう!

- 個別の教育支援計画を作成する目的
教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある児童生徒の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における、児童生徒の望ましい成長を促すため、教育機関が中心となって作成するもの。
- 個別の指導計画を作成する目的
教育課程を具体化し、障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するため。
- 本書p5～6(流れ図)を作成する目的
実態把握から指導目標(ねらい)を設定するプロセス(設定に至る考え方や指導の根拠)を明確にするため。



第2章では、指導の実際の事例を掲載しています。黄色のラインには、どのようなことを目的としているのかを記載していますので、目的と活動の関連を整理するうえで参考にしてください。

第2章 具体的な実践事例

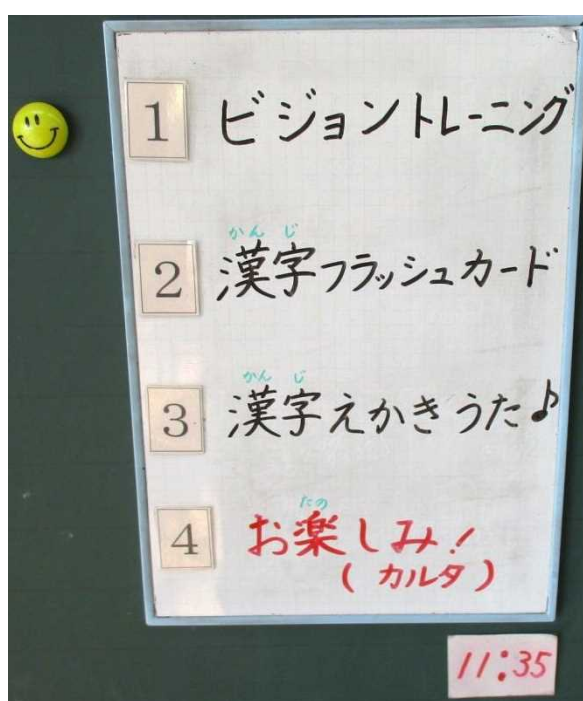
1 個々の実態に応じた学習の工夫

(1) 小学3年生：特性、特に強みを生かす学習や環境整備

“繰り返し書く”以外のやり方で漢字を覚える（得意なやり方を探る）



①全体が壁や窓に向かって4つのブースに分かれている。それぞれの学習に集中できるように配慮されている。



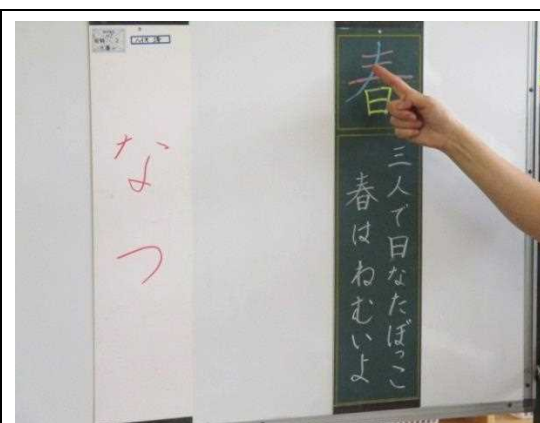
②本時の流れを提示している。終わりの時間を示し、今行っている学習が分かるようマグネットを移動して知らせている。



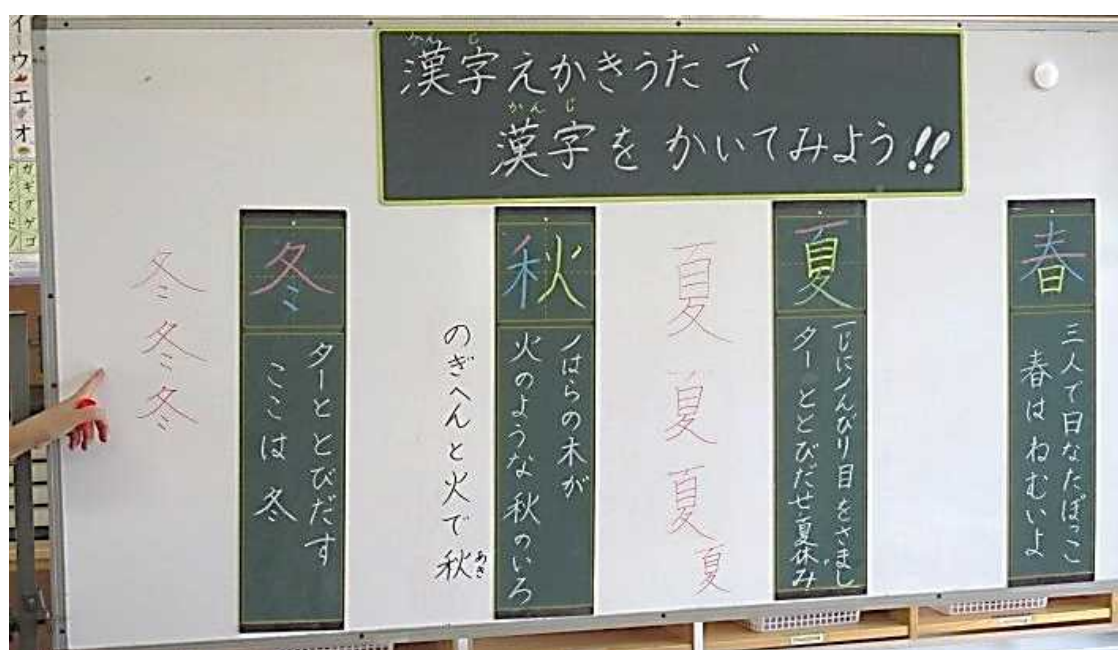
③（上段）例えば「カタカナ」「カタナカ」「カナタカ」から正しい表記を選ぶ学習。
（下段）手の動きで拗音や促音を覚える学習。



④フラッシュカードを使ってどんどんめくり、絵を手掛かりに漢字の形を覚える学習に取り組んでいる。



⑤文章や唱えることを使って漢字を覚える学習。“春”を学習しているときには“夏”を裏返して刺激の調整をしている。



⑥“秋”にも文章をつけて知らせたが、児童が理解していたため、部首等の呼び名を利用した。目的はこの漢字が書けるようになることであるため、見て写すことにこだわらず、聞いてイメージを掴む等本人なりのやり方で習得できればよいという考え方で指導している。



⑦興味関心をもって取り組める仕掛け。課題を与えられるのではなく、「自分で選ぶ」ことも手立ての一つ。



⑧袋にはそれぞれ漢字のパーツが入っており、パズルのように組み合わせて漢字をつくる学習をする。



⑨振り返りシートで、どのやり方が分かりやすかったかを、本人に直接問うことによって、よりよい学び方を探る。

ポイント

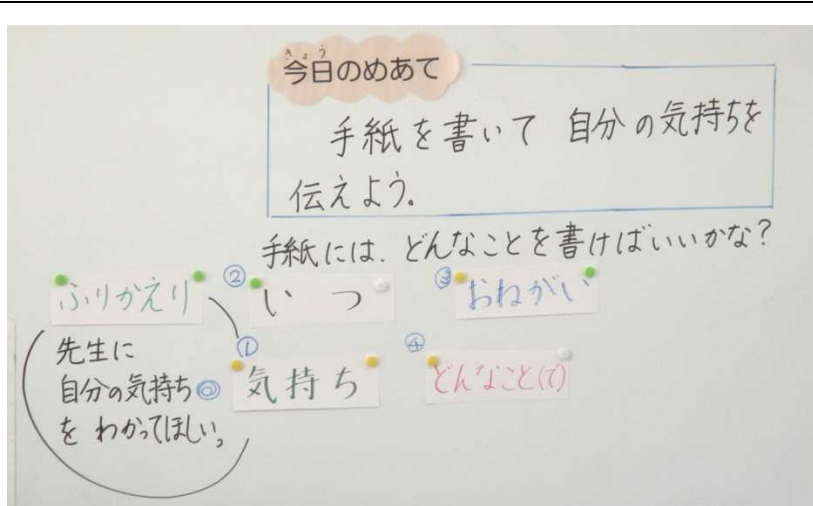
文字を書くことが苦手な子どもや筆圧に課題がある子どもにとっては、机に直接用紙を置くよりも、マット等を敷いて圧力をかけやすくすることや、用紙が動かないようクリップで留めることで書きやすくなる場合もある。子ども自身がどんなツールを使えばできるかを知ることや、そのツールを使いこなせるようになることも将来に向けて必要な学びとなる。

⑩次時に学習する内容についてはテレビモニターに映して知らせることによって、見通しや期待感をもたせるようにしている。

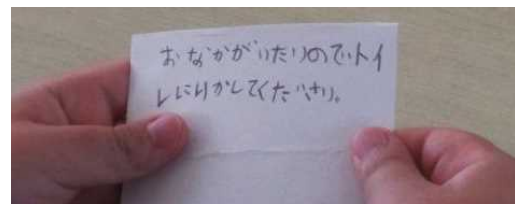
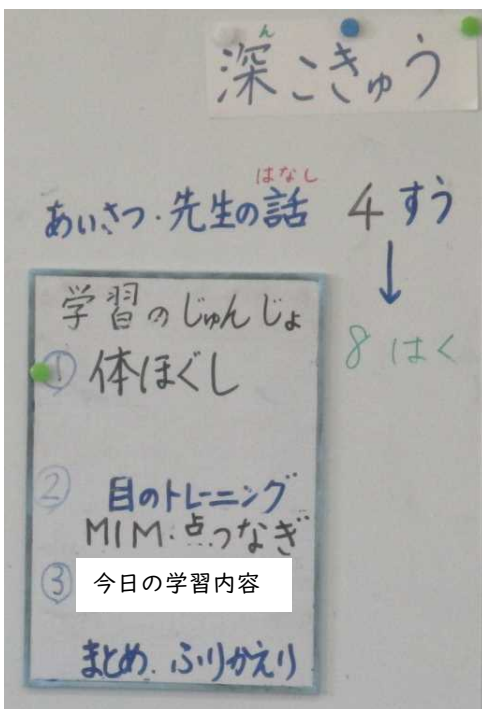


(2) 小学4年生：今、困っていることを解消するための学習

自己理解・心理的な安定・コミュニケーション

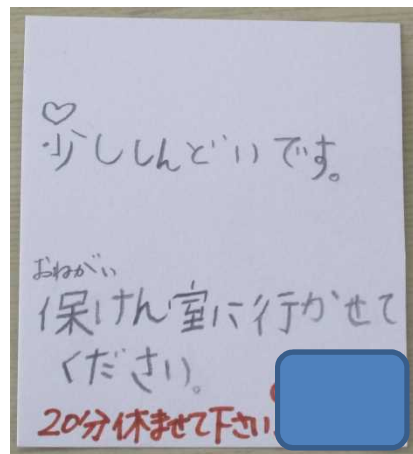
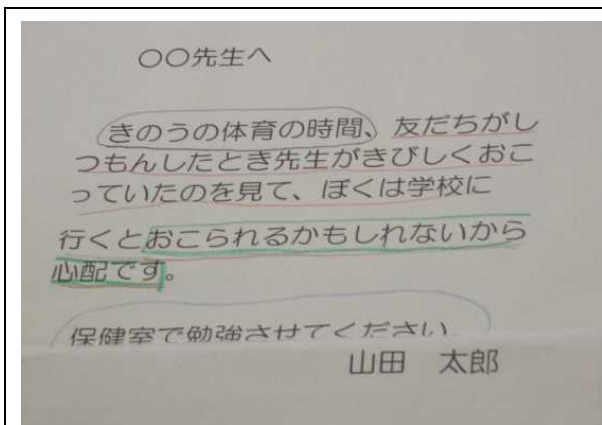


(授業後の板書)
何を学ぶのか、何ができたか、大切なことなど、要点のみが整理されている。



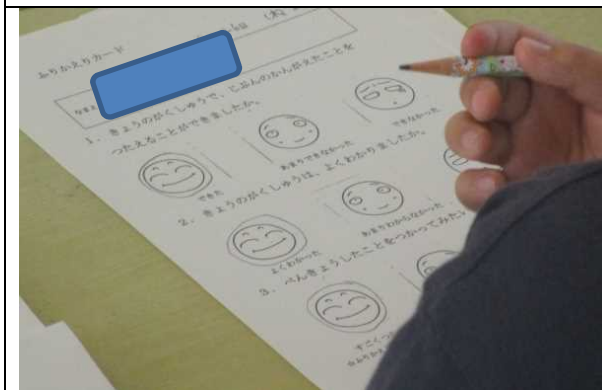
① 落ち着いて学習に向かえるように、深呼吸を取り入れている。通常の学級でも児童自身が実践・般化できそう。

② 困ったときに教師に伝えるやり方として、手紙で知らせることを学んできた。今回の授業では、より相手に伝わる書き方について学ぶ。



③例題を読み、色鉛筆で要素ごとに印をつけることによって、伝わりやすくなることを学んだ。

④最初に書けていた“お願い”とともに、自分の気持ちを記入することができた。



⑤学習の最後には、理解したことや習ったことを使ってみたいかどうかなどを、表情カードのイラストを使って振り返る。

どうしたいのかを事前に伝えてくれるようになったので、安心して見守ることができるわ。



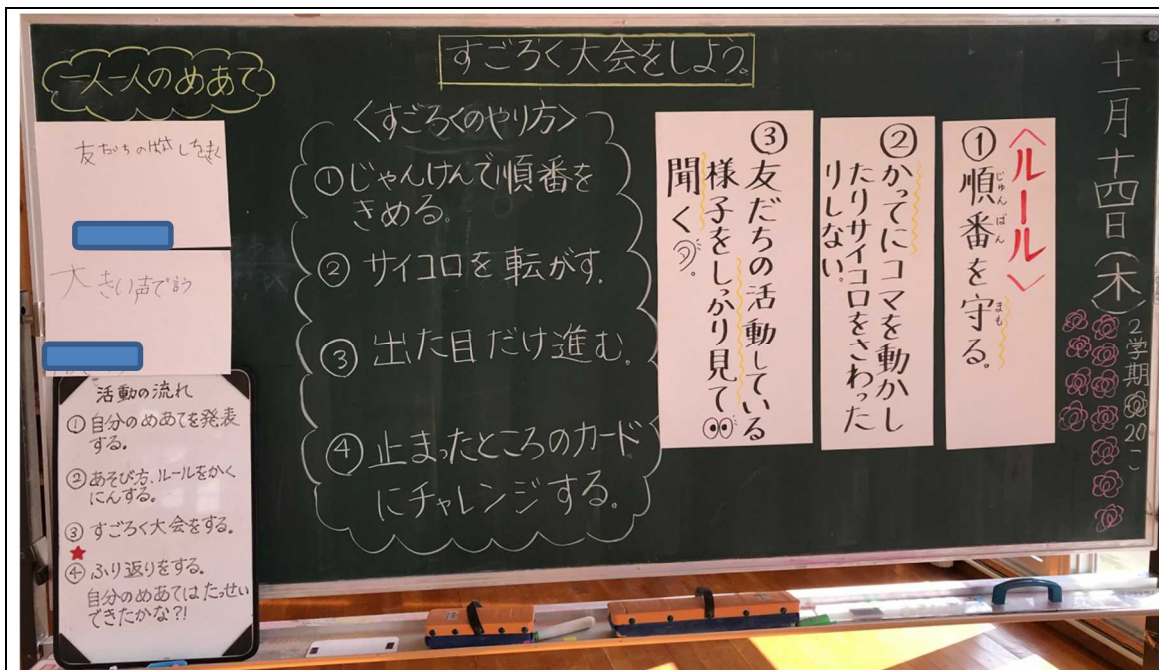
しんどくなったらお願いすればいいことがわかったので、安心して教室で過ごせるよ。



2 授業での工夫

(1) 小学2年生：すごろく大会をしよう①

やるべきことを理解して学習に取り組む・意欲を引き出す
得意なことを生かす・適切な言い方の練習・こだわりの調整の学習

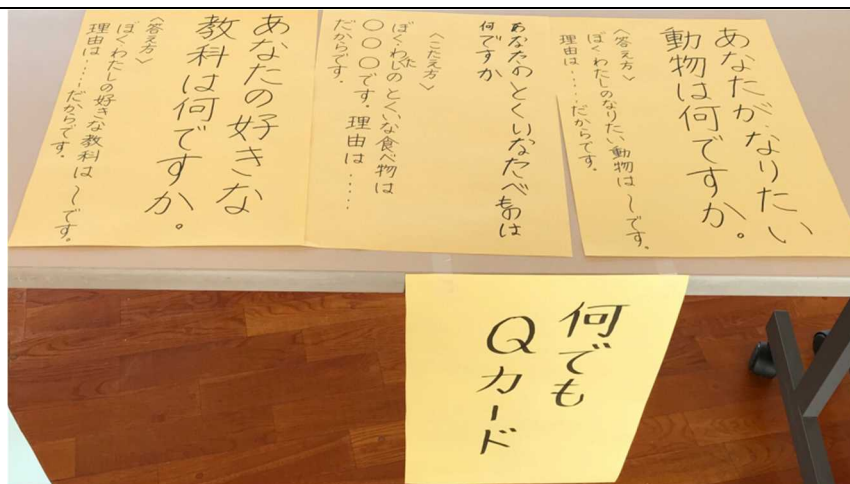


黒板の板書のみが表示されており、授業の中で活動の流れやルール、一人一人のめあてを、時には読んだり書いたりして確認しながら進めていく。

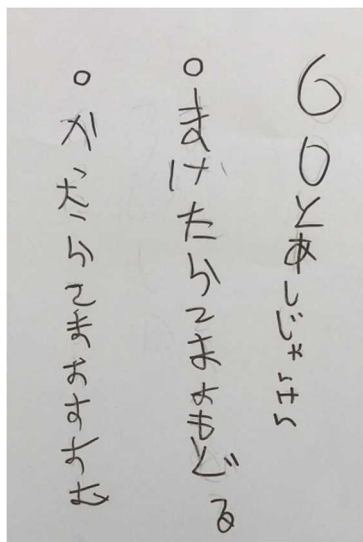


担任より：書籍から子どもの興味を引く内容としてすごろくを考えました。児童が身体を動かすことが好きのため、机上でのものではなく、自分が駒となって進んでいくものにアレンジしました。

止まったマスには「指令」「何でもQカード」「ラッキーカード」「アンラッキーカード」があり、各カードのブースで引いた内容を行うルール。



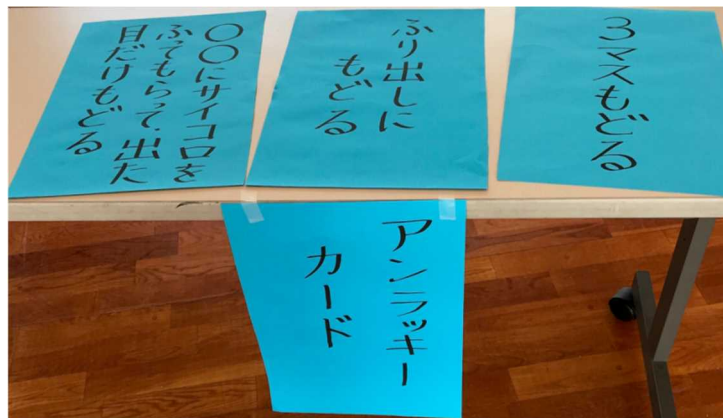
答え方や質問の仕方などの言い方も記入し、適切な言い方の練習をする。



書くことは苦手だが、ゲームという活動を通して楽しみながら書く練習ができた。



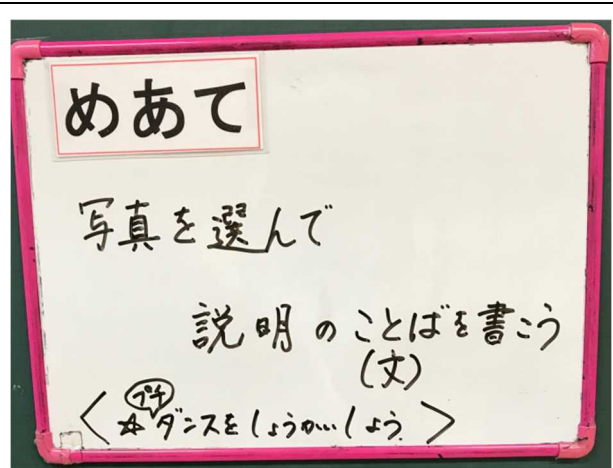
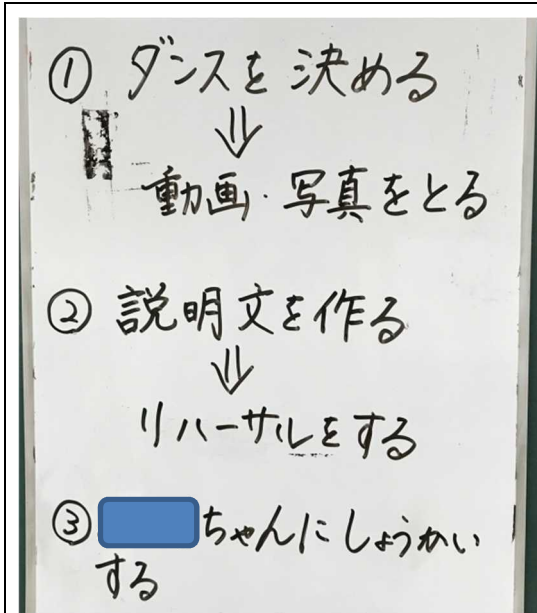
普段関わりのない相手にもゲームを通して適切なやり方で質問できた。



ゲームを通して、良いこともあればよくないことも起こることを学ぶ。

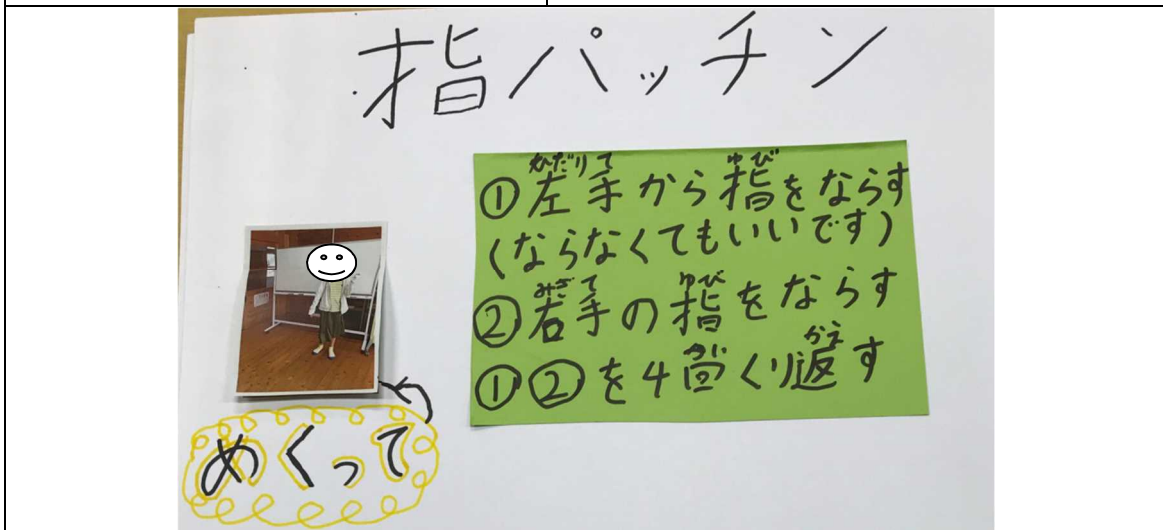
(2) 小学6年生：ダンスを友達に教えよう

意欲を引き出す・得意なことを生かす・相手を意識した行動の学習



ダンスが得意な児童。発表の場を設ける。この単元全体を示している。

本時の学習：友達にダンスを教えるために、写真つき説明文を作成する。



本児自身は感覚で踊ることができるが、他の人に教えるためには、相手に伝わるように具体的に知らせる必要があることを学んでいる。

授業の中では、「これで〇〇ちゃんわかるかな？」や、「フリガナふったほうがいいでね？」など、相手を意識した言動が出ていた。また、相手に興味をもってもらうために、「めくって」の部分を作るなど工夫ができた。

(3) 小学6年生：役割や演技を通して学ぼう

適切な言い方の学習



①授業のめあて（左）に沿って、どのような言葉が適切かを知らせ練習する。

まとめ

困ったらしいしよに行動したみから、やさしく、丁寧に話すよ。

上ばきをなくして困っている一年生に、いっしょに探してあげようと申し出る。

■ 小学校にはじめてきたお客さんに、職員室の場所を聞かれて案内する。

運動場に遊びに行こうと急いでいると、先生に手伝ってほしいと呼び止められる。

②実際に起こったり困ったりするような場面ではあるが、役割演技という形にして外在化することによって、子どもが俯瞰的に捉えることができ、適切な言い方を選択して答えることができる。

(4) 異学年、複数への指導：ゲームを作ろう

意欲を引き出す・得意なことを生かす・相手を意識した行動の学習・協力する



教室全体に4つの2人組グループがあり、グループごとに違ったゲームを制作している。教室中央には作業に必要な道具類を置き、十分な作業スペースを確保している。



ひとりで行うことが難しい作業を入れ、二人で協力せざるを得ない状況を作っている。

(5) 異学年、複数への指導：すごろく大会をしよう②

友達と協力する・ルールを守る・相手を意識した言動

〇〇学級自立活動学習指導案

日 時	令和〇年〇月〇日 (木) 第5校時
場 所	〇〇学級教室
児童数	〇年2名、〇年1名、〇年1名
指導者	〇〇 〇〇

1 題材名 すごろく大会をしよう

2 題材設定の理由

○児童観

対象となる児童4人は、他者と関わることは好きであり、友達に対して自分から話しかけたり一緒に遊んだりする姿がよく見られる。しかし、決してうまく関わりを持ってはいえず、自分の思いだけで接したり、周りの状況を考えずに行動したりしていることが多い。また、明るく活動的で動くことが好きな児童が多いが、ルールを守ることや感情をコントロールすることが苦手で、けんかやトラブルになることがよくある。

1学期前半までの自立活動や教科の学習では、できるだけ刺激を避けるため、他学年と同じ時間に重ならないように時間割を組みそれぞれの学年で活動してきており、集団の良さを生かした学習ができていなかった。しかしその後、もの作りの好きな児童が多いことから、それを利用して一緒に自立活動の時間を仕組んだところ、仲間と活動することの楽しさに少しずつ気づいてきている。また、入学当初は学校生活に慣れるために、交流学級での活動が主だった1年生も、初めて合同での活動に参加する。上級生の下級生に対する思いやりや優しさにも期待したい。

○題材観

本題材は、ルールを守ってみんなで楽しんだり、競ったりしながらゲーム活動をするを主な内容としている。

- ①見通しをもち、流れに沿って活動すること
- ②友達と仲よくし、仲間との活動を楽しむこと
- ③自分の気持ちをコントロールし、ルールを守ったり友達を思いやったりして活動すること

自閉症・情緒障害特別支援学級の児童にとって、これらのことは重要な学習内容であると考えられる。すごろく遊びは、ルールや課題に沿って活動することが重要で、またすごろくの中の活動が各々の児童の課題解決のためのトレーニングとなるのみでなく、仲間との協力・競争を通して、集団活動の楽しさ・悔しさ等を実感できる活動でもある。さらに、進んで活動しようとする気持ちを育て、自分の気持ちをコントロールすることのできる活動でもある。さらに、上級生はすごろく作りにも挑戦し、自分たちで作ったすごろくゲームをすることで、より意欲的に取り組むことができると考えた。

○指導観

本題材の指導にあたっては、リラックスし安定した状態で学習に取り組めるよう、気持ちをほぐす活動から始めたい。そして全員が楽しみ協力してゲームを行うことを重視したい。長時間着席していることが難しい児童や集中力が持続しづらい児童が多いので、コマが止まったところの指示では、声を出したり体を動かしたりする活動を取り入れるなど、メリハリをつけた活動を仕組みたい。また、自分の順番でない時には応援をしたり、ヒントを与えたりすることで、よりよいコミュニケーションに向けた言動ができるようにしていきたい。

○自立活動の区分、項目

- 2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- 3 人間関係の形成 (4) 集団への参加の基礎に関すること
- 6 コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

3 題材の目標

- ・すごろくゲームを通して友達と協力しながら活動することができる。(人間関係の形成)
- ・見通しをもち、ルールを守ってすごろくゲームを楽しむことができる。(心理的な安定)
- ・相手を意識し、場に応じた行動をしたり、ことばを使ったりする。(コミュニケーション)

4 指導計画 (全5時間)

第1次「すごろくゲームを思い出そう」

- ①すごろくゲームのやり方を、過去のビデオを視聴することによって思い出す(知る)。
ルールや準備物を出し合い話によって思い出し、制作・大会等の計画を立てる。

第2次「すごろくを作ろう」

- ②共同制作(質問カード、すごろく盤など)→できたことの確認と次時の計画
- ③共同制作(ヒントカード、コマなど)→できたことの確認と次時以降の確認

第3次「すごろく大会をしよう」

- ④ルールを守るやり方が分かり、言動に気をつけて活動できる。…本時
- ⑤ルールを守った言動が、どの友達も楽しく活動できるように良かったと気づくことができる。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

ルールを守って、すごろくゲームができる。

(2) 児童の実態と目標

	児童の実態	目 標
A	体を動かすことは好きであるが、注意力散漫で興味がそれやすい。見通しがもちづらい活動には参加できないときもある。	・提示されたものを見て、活動の流れやルールを理解し、すごろく大会に参加できる。
B	ものづくりや生き物探しなど、好きなことは集中してできるが、学習への意欲は低い。友達の言動でイライラして、気持ちのコントロールができなくなり、手が出ることもある。	・活動の流れやルールを理解し、すごろく大会に最後まで参加することができる。 ・イライラした時は、気持ちを言葉で表したり望ましい方法で解消したりできる。
C	まじめに一生懸命取り組むことができるが、理解に時間を要する。楽しくなりすぎた時や友達のちよっかいなどで、興奮が抑えられなくなることがある。	・提示されたものを見て、活動の流れやルールを理解して行動できる。 ・気分が高まりすぎた時には、自分から教師に伝え、望ましい方法で落ち着くことができる。
D	好奇心旺盛である。リーダーを任せると責任をもって行動しようとする。友達と活動することを好むが、自分の考えを押し付けようとするところがある。友達の言動でイライラして、気持ちがコントロールできなくなり、手が出ることもある。	・リーダーとして声のかけ方やルールを皆に知らせ、自分も守って最後まで活動できる。 ・イライラした時は、気持ちを言葉で表したり望ましい方法で解消したりできる。

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (☆支援)
<p>1 アイスブレイキングを行う。</p> <p>2 活動の流れとめあてを確認する。</p> <p>①めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①ルールを守る</p> <p>②仲よくする</p> <p>③みんなで楽しくやる</p> </div> <p>②困ったときの対処方法を確認する。</p> <p>③適切な応援の言葉やヒントの言い方の練習をする。</p> <p>3 すごろく大会をする。</p> <p>①ルールの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番にサイコロを振る。 ・引いたカードの指示に従う。 (3回チャレンジできる。) ・わからないときは、お助けカードを使うことができる。 ・ピッタリの数でゴールする。 <p>②順番を決める。</p> <p>③すごろくゲームをする。(20分)</p> <p>4 ふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表する。 ・友達の良いところを見つけて発表する。 ・教師の評価を聞く。 <p>5 後片付けをし、次時の活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なゲームをしてリラックスできるようにする。 ・めあてを掲示し、リーダーの声かけの後に全員で声を出して読んで確認できるようにする。 ☆時間を提示し、見通しがもてるようにする。 ☆イライラした時の望ましい対処法を思い出しやすいように、小ホワイトボードに書いて提示しておく。 ・「やったね」「どんまい」「ヒントを出しましょうか？」 ☆ルールを1つずつ掲示しながら確かめていく。理解しやすいように、キーワードにして黒板に掲示する。 ・リーダーの声かけの後に全員でキーワードを読むことにより確認できるようにする。 ☆タイムタイマーをかけて行うことで終わりが分かるようにしておく。 ☆良かったことや楽しかったこと、次に頑張りたいことなど具体的に聞く。 ☆感想を板書し、花丸をつけて評価する。 ☆児童から出なかった良かった点について教師が評価する。 ☆普段の様子と照らし合わせるようにして、個別の目標に沿った内容を話し、自覚できるように伝える。 ・次時の活動に見通しをもたせることにより、意欲を引き出す。(次時は〇〇学級の友達を招待してすごろく大会をする)

(4) 準備物

- ・めあて、ルールの表示、望ましい行動の表示、タイムタイマー
- ・すごろく盤、コマ (ペットボトルキャップ)、サイコロ、質問カード、ヒントカード など

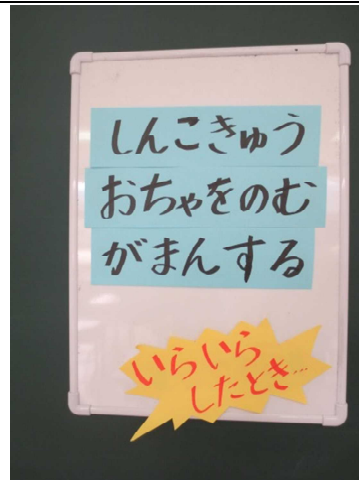
6 評価

- 5 (2) の個別の目標が達成できたかどうかを確認する。

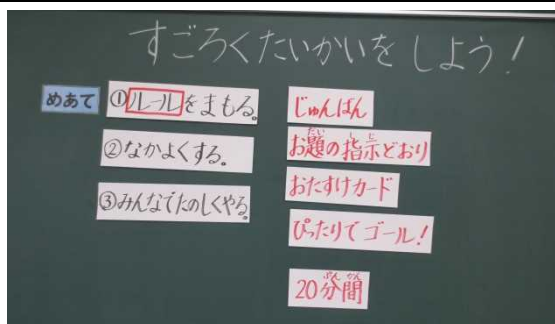
授業の様子



①体をほぐして、学習に向かえる気持ちを引き出す。



②夢中になる余りいらいらすることも あるが、そのようなときの望ましい 行動を表示している。



③ルールを明示して、みんなが守れる ようにしている。



困った時には“おたすけカード”があ る。



自分が経験したことや、分かりやすい 質問、ヒントなどが書かれている。

(6) 中学3年生：お金の使い方を知ろう

自己管理

めあて

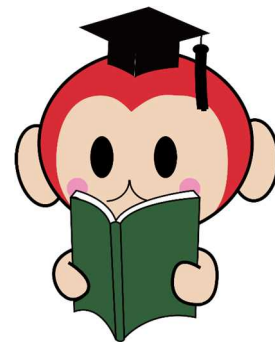
生活に必要なお金は、
何があるか考えて
使い方を知ろう。

10
月
23
日
(水)
13:15
?
14:00

今日の内容

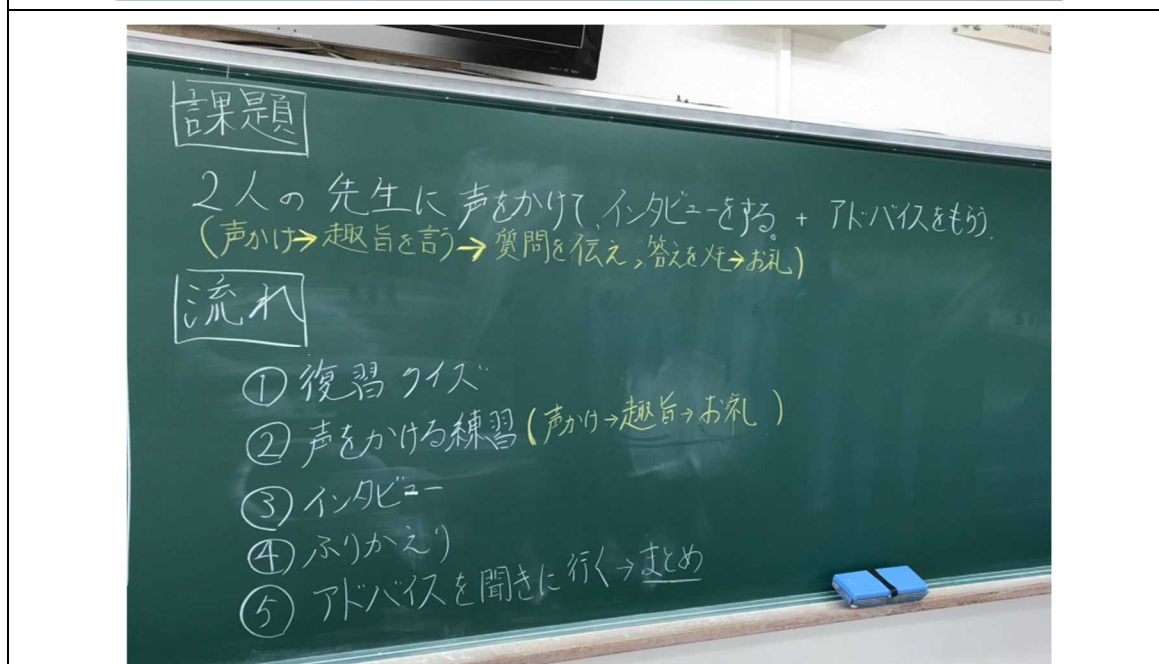
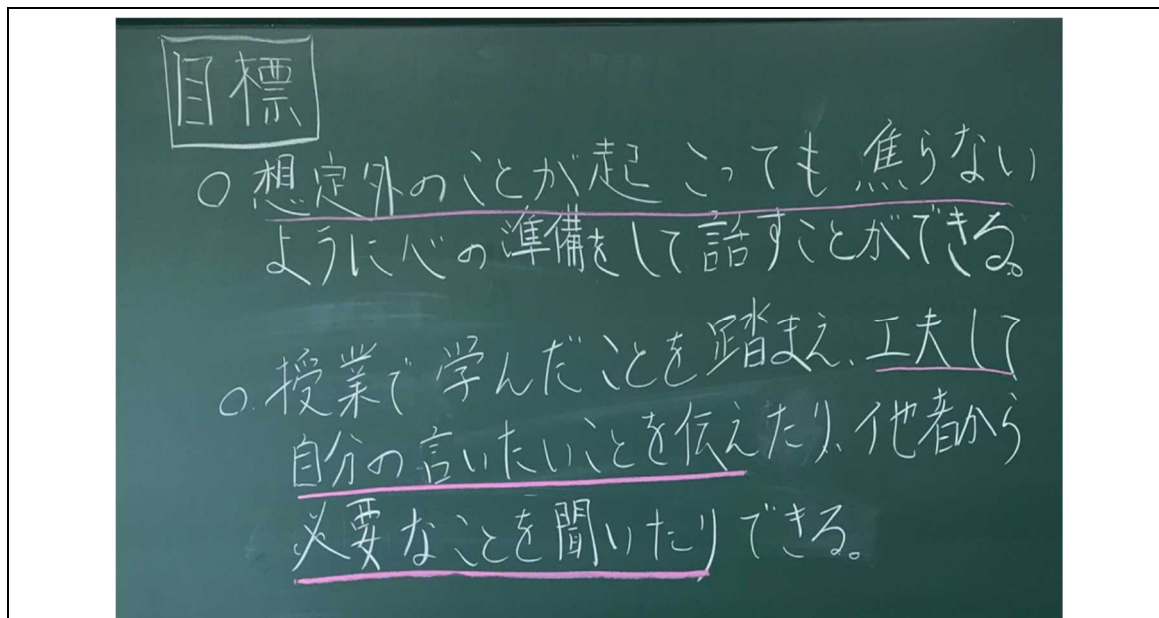
- コミュニケーション 4分
- トレーニング 5分
- 学習 25分
- 休憩 3分
- おたのしみ 5分
- ふりかえり 3分
- ワークシート

最初の「コミュニケーション」では、最近話題になっていることや近況などを教師と話すことによって気持ちを整え、学習に取り組みやすいようにしている。生活と金銭についての具体的な学習に取り組んでいる。カードに生活に必要なものを書いてきており、どうしても必要なものやそれらの値段などについて学習していた。



(7) 高等学校3年生：他者とのよりよいコミュニケーションの仕方

自己コントロール・相手を意識した行動の学習



これまでの学習では、身近な人→関わりがある人→関わりはあまりないが知っている人など段階を踏んで人に尋ねる学習を積み重ねてきた。これまでの学習の過程をクイズ形式で復習し、声のかけ方を練習しておくことで、普段関わりのない人に対して自信をもってインタビュー活動ができた。聞こえづらい時には自ら質問することができた。

(8) 高等学校2年生：気持ちのコントロール

自己理解・自己コントロール

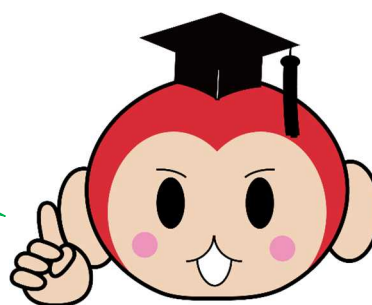


「最近腹が立ったこと」に対して、どうしたらその気持ちを緩和することができるのか、ストレスコーピング※¹、アンガーマネジメント※²の授業。スライドをモニターで写して授業を進めている。

※¹ ストレスコーピング…ストレスの基にうまく対処しようとする事

※² アンガーマネジメント…怒る必要のあることは上手に怒り、怒る必要のないことは怒らなくて済むようになることを目標とする、怒りの感情と上手に付き合うための心理教育、心理トレーニング

次ページには年間計画（抜粋）を載せています。高等学校を卒業すると就職や進学で生活や学習の仕方などが大きく変化します。それらに即対応できる力を身につける内容や、現在困りそうな内容を組み合わせで計画しています。



No.	月日	人数	タイトル	内容
1	5月10日	8名	自立活動オリエンテーション	自己紹介、挨拶の仕方、スケジュール管理
2	5月17日	8名	いちばん近くて遠い存在の自分～自己理解を進める～	自分が思う自分と、相手からの印象をくらべる
3	5月24日	8名	学習を攻略せよ！～自分に合った学習スタイル～	見る、書く、動くなどの勉強法を体験する
4	6月7日	8名	これからのためにこれまでを振り返る～学習と1日の生活～	調査Ⅰの結果を振り返る、日課表の作成
5	6月14日	4名	簡単なようで難しい雑談～コミュニケーション～	コミュニケーションチェック
6	6月15日	4名	三人寄れば文殊の知恵～みんなの考えをまとめる～	動画を観てみんなの意見を生かしたタイトルをつける
7	6月21日	4名	簡単なようで難しい雑談～コミュニケーション～	すごろくトーク
8	6月22日	4名	調査Ⅱを攻略せよ！～学習スケジュール～	日課表を見直して勉強時間を確保する
9	6月29日	8名	調査Ⅱを攻略せよ！～学習スケジュール～	試験の日程を見て計画を立てる
10	7月12日	4名	自由を有意義に～夏のスケジュール管理～	夏休みの予定を確認、個別面談
11	7月13日	4名	自由を有意義に～夏のスケジュール管理～	夏休みの予定を確認、個別面談
12	9月6日	5名	去りゆく夏を惜しんで～夏の出来事を語り、最後の思い出を作ろう～	5W1Hを意識した説明、調理実習の計画
13	9月13日	5名	みんな協力するぞ！～調理①～	そうめん作り
14	9月20日	2名	「人」は支え合って生きていく～相手への思いをカタチにする～	そうめん代を出してくれた校長へのお礼を考える
15	9月21日	3名	「人」は支え合って生きていく～相手への思いをカタチにする～	そうめん代を出してくれた校長へのお礼を考える
16	9月27日	5名	調査Ⅲを攻略せよ！&感謝カード完成	校長へのカードを完成させる、調査Ⅲの学習計画
17	10月11日	2名	他人以上、友達未満の人間関係～相手を知る～	友人とは言いえない組み合わせでサイコロトークをし、他己紹介
18	10月12日	3名	他人以上、友達未満の人間関係～相手を知る～	友人とは言いえない組み合わせでサイコロトークをし、他己紹介
19	10月18日	2名	字は人柄の表れ？～状況に合った字を書く～	大きさやバランスを考えて字を書く、名札作り
20	10月19日	3名	勝敗でなく思いやり～ラリー～選手権～	バドミントンをどれだけ続けられるか
21	10月25日	2名	1人よりも2人～協力して課題に取り組む～	2文字で漢字ゲームをして、協力すれば多くの考えが浮かぶことを経験する
22	10月26日	3名	1人よりも2人～協力して課題に取り組む～	2文字で漢字ゲームをして、協力すれば多くの考えが浮かぶことを経験する
23	11月1日	2名	社会人になるために～身だしなみを考える～	身だしなみをチェックし、改善点を考える
24	11月2日	3名	社会人になるために～身だしなみを考える～	身だしなみをチェックし、改善点を考える
25	11月8日	2名	三人寄れば文殊の知恵～みんなの考えをまとめる～	動画を観てみんなの意見を生かしたタイトルをつける
26	11月9日	3名	三人寄れば文殊の知恵～みんなの考えをまとめる～	動画を観てみんなの意見を生かしたタイトルをつける
27	12月	5名	備えあれば憂いなし～調理実習の計画～	パンケーキの枚数やトッピングを考える
28	12月19日	5名	みんな協力するぞ！～調理②～	みんなで作って食べる
29	12月25日	5名	校外学習で実践演習	公共交通機関で町へ行き、ボウリングをする

調査前には自分の学習
方略を学んでいる。

夏休み前には自己管
理のため長期的なス
ケジュールの立て方
を学んでいる。

思いの伝え方の学習を
している。

卒業後の進路を見据えた
学習を行っている。

季節のイベント、学校行事を考慮し、必要な内容が設定されている。
自立活動の時間の学習をどう日常に般化させるのか、意識して計画することが評価にもつながる。

3 集中しやすい環境づくりの工夫



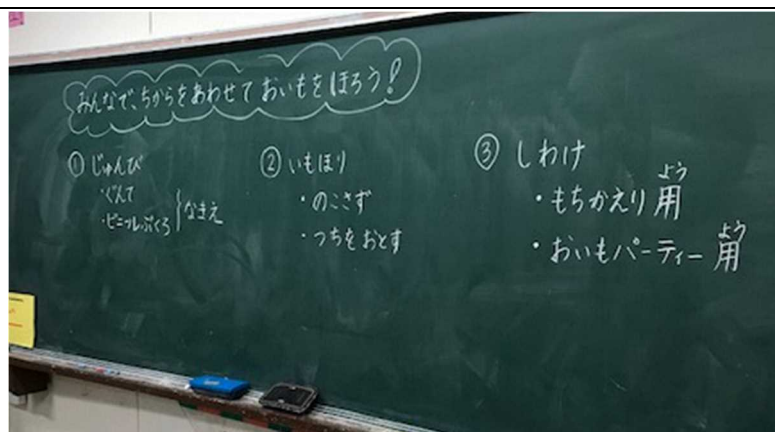
黒板回りに刺激になるものが少なく、授業や教師の話に自ずと集中できる。



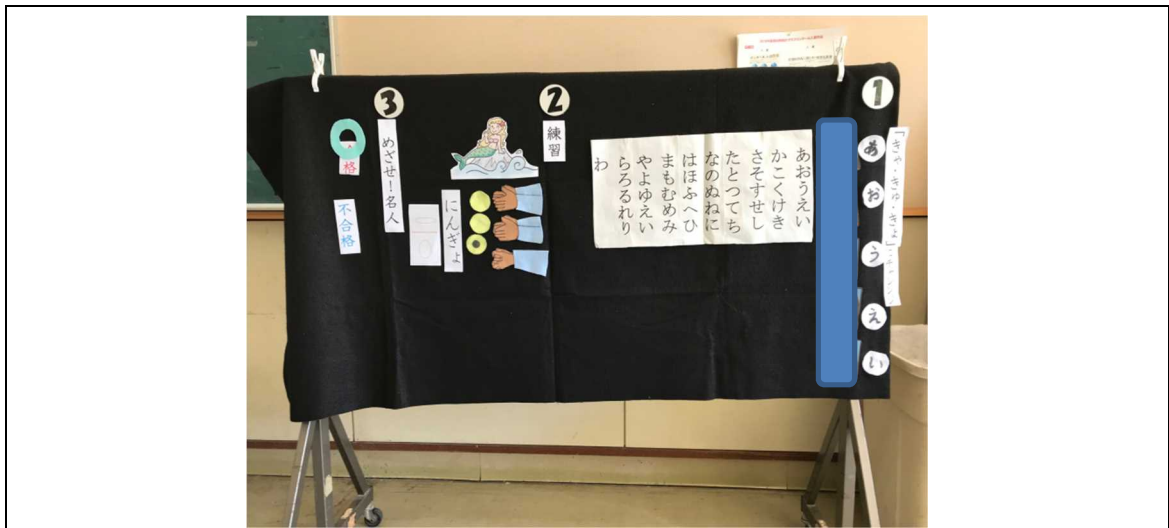
複数で授業をする場合、子どもどうしが刺激となる場合がある。ついでなどで集中できるようにしている。



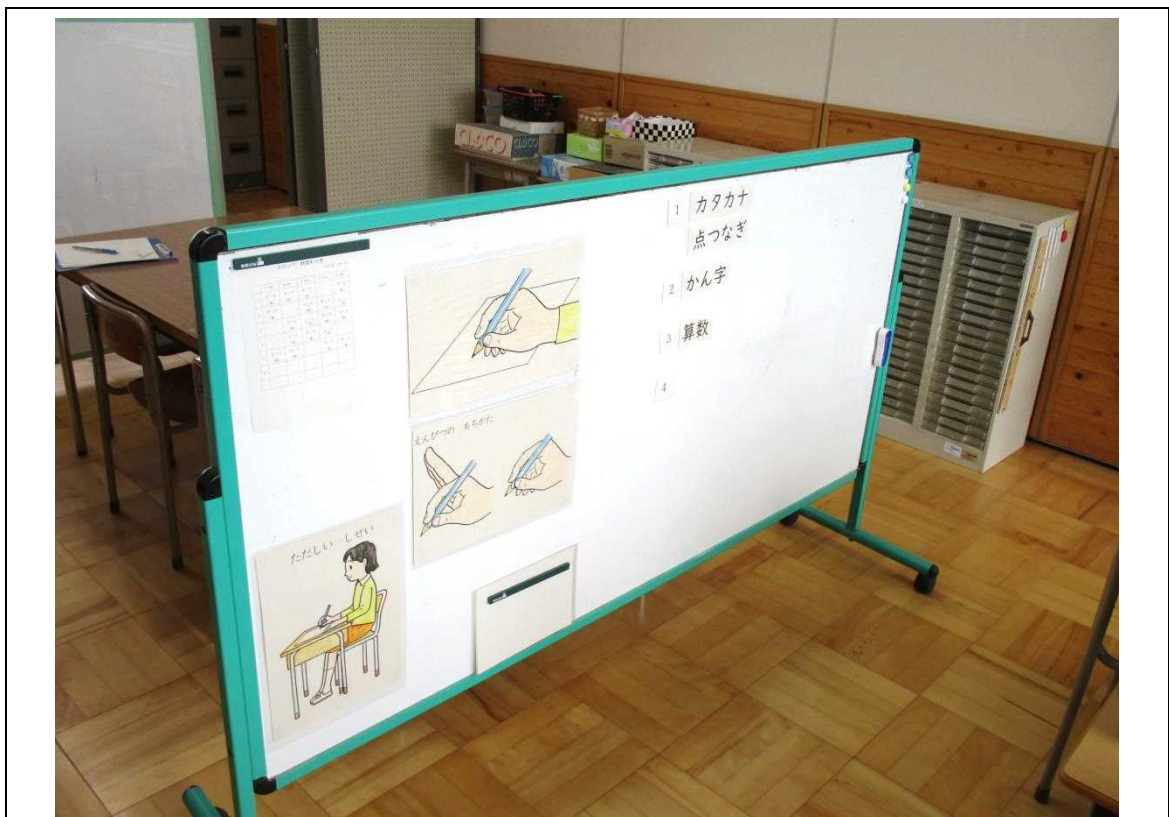
見えることで気になって学習に集中しづらい場合には、カーテンなどで目隠しをする。



板書で知らせる場合は、順番や活動が理解しやすいように整理して書く。



複数の学校で通級による指導を行う巡回指導では、その学校に教材や備品を置いておけない場合もある。黒い布を黒板に見立て、壁やついたてを利用することも考えられる。



低めのホワイトボードを利用すると、ついたてにもなって集中しやすい環境を整えるためのツールとして利用できる。

4 「わかる」「できる」につなげる工夫



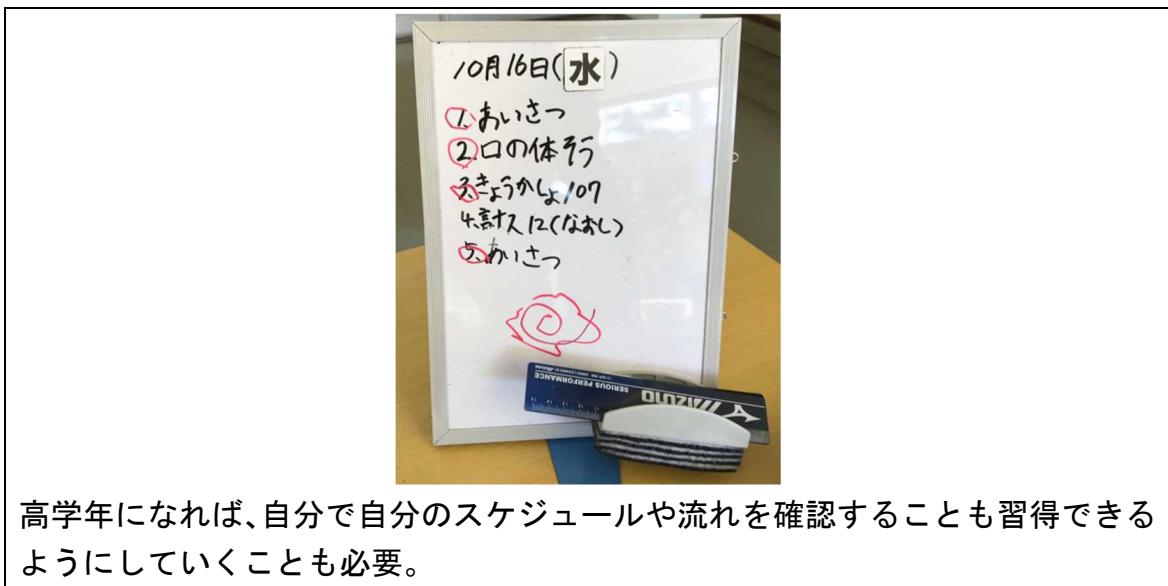
うわばきを脱ぐ場所の表示



注目すべきところを具体的に表示



どちらの方向に向かってどこから投げるのか明確な視覚支援。枠からはみ出さずに投げるルール学習にも使える。この支援は運動会やクラスでのゲームなどでも利用・般化できる。

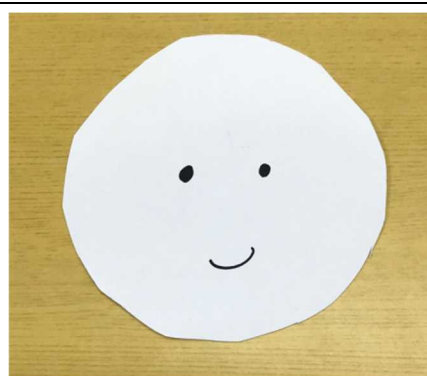


5 教材
・漢字博士

へんとつくりのカードを組み合わせて漢字を作ることができる。

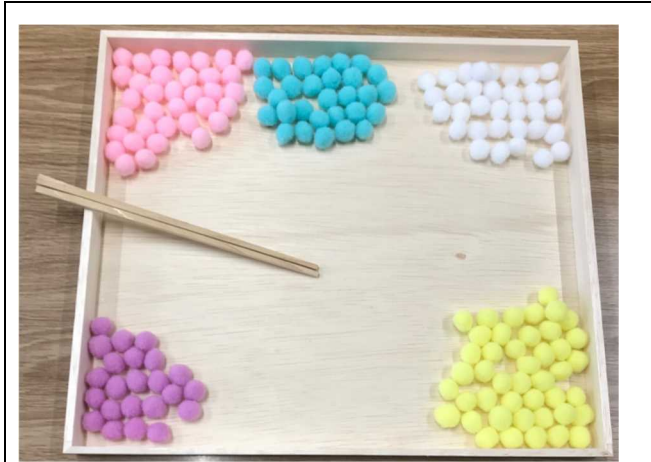


・表情カード



気持ちを表すカードを利用して、今の気持ちについて確認する。右は児童が描いたもの。選ぶだけでなく、時には自分で描いてもらい説明を求めることで、自身の気持ちについて理解が深まる場合もある。

・ポンポンつまみ



手指の巧緻性を高めるための学習に利用できる。

・アルファベットスポンジ



裏に板磁石を貼っている。スペルを覚える学習などに利用している。

・5W1Hカード



作文の際などに利用する。

・部首カード



部首の形や読み方、利用した漢字などが記載されている。

第3章 資料

1 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画作成及び活用に向けて（作成の手引き）

【作成、活用の流れ】

時期の目安	作成初年度	2年目以降
作成前に	1. 保護者に作成について同意を得る。（『作成の同意書』に署名と押印をもらう。）	
5月までに	2. 年度当初の懇談や家庭訪問等の機会を利用して、本人及び保護者と『個別の教育支援計画様式 ②基礎情報シート、③願い・連携機関シート』に記載する情報や、本人・保護者の願いを確認する。（本人・保護者の願いは3年程度を目安に、中長期的な将来の願いとして確認する。）	1. 内容を見直し、必要に応じて更新を行う。
6月までに	<p>3. 『個別の教育支援計画様式 ④支援の計画シート』で本人の実態を整理し、本人・保護者の願いを踏まえこの1年間の目標を設定する。また、設定した目標を達成するために必要な支援の内容を検討し、シートに記載する。</p> <p>※支援の方法・内容は家庭・学校互いの場でできることを考えることが大事です。また、放課後等デイサービスなどの福祉事業所等を利用している場合には事業所にも考えてもらうことが家庭、教育、福祉の連携につながります。また医療機関を受診している子どもであれば、目標設定や具体的支援方法の内容について、医療的な視点でアドバイスをもらうことが、適切な目標設定や有効な支援につながります。福祉事業所等や医療機関に対し、直接学校が意見をもらう場を設けることが難しい場合には、計画案の段階で一旦保護者に渡し、保護者がそれぞれを持ち回り、意見をもらう方法なども考えられます。</p> <p>4. 支援の方法・内容まで書き込まれたシートの内容を保護者へ説明し、合意を得る。（『個別の教育支援計画様式 ①表紙 確認書』内の合意の年度当初の確認日を記入）全てのシートを印刷し個人ファイルに綴じる。（個別の教育支援計画当初記入分の完成）</p>	<p>2. 初年度と同様に1年間の目標、必要支援の内容をシートに記載し、合意を得る。</p> <p>（以降、初年度と同様の流れ）</p>
（1学期末までに）	○個別の教育支援計画の内容を、学校の教育課程と照らし合わせて、学校教育目標達成のための計画（個別の指導計画）を作成、期末懇談時に1学期の評価と合わせて保護者と内容を共有する。	

以降、年度末まで必要に応じて	○作成後も必要に応じて、校内支援会や保護者・関係機関を交えた会を開き、方向性や連携方法について確認する。(支援会が難しい場合は、3. 同様に保護者による持ち回りで意見をもらう方法なども考えられます。)	
	5. 年度当初の内容に変更等があった場合は、紙媒体の書類に手書きで追記する。(その際は追記年月日も併せて記入する。)	
2月	6. 年度末に向けて、『個別の教育支援計画様式 ④支援の計画シート』内の「成果と課題」「次年度に向けての引き継ぎ事項」の欄を記入しておく。	(卒業年度のみ) 3. 左欄6. と並行して保護者や進学先から情報を得ながら、支援プランを作成する。
3月	7. この1年で記入されたシート全てについて、年度末の懇談等で保護者と確認する。『個別の教育支援計画様式 ①表紙 確認書』に保護者署名と押印をもらう。	4. 左欄7. に合わせて、支援プランの内容を保護者と確認する。

【就学・進学時の引き継ぎについて】

○進学時の引き継ぎについては、例えば(1)在園・在学時の個別の教育支援計画を保護者に手渡し、保護者を通じて就学・進学先へ引き継ぎを行う場合と、(2)直接就学・進学先へ在園・在学時の教育支援計画を送付する場合が考えられるが、いずれの場合においても指導要録の指導に関する記録の保存期間を参考とし、5年間その写しが保存されることが文書管理上望ましい。また(2)の学校等の間で直接やりとりがなされる場合には『個別の教育支援計画様式 ①表紙 確認書』の最下部欄を利用し、保護者からの署名押印をもらうなど、条例や法人の関する規程に基づき、個人情報として適切に取り扱う。

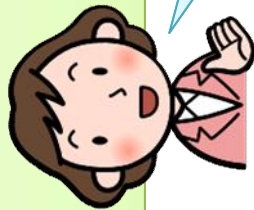
【その他の留意事項】

管理責任の所在	学校内における個人情報の管理の責任者である学校長が適切に保存・管理する。	
保管の仕方	紙媒体	<ul style="list-style-type: none"> ・個人名のファイルを作り、全ての記録を綴じていく。(手書きで追記したものなども、廃棄時期が来るまで廃棄しない) ・保存期間は指導要録の指導に関する記録に準じる。(卒業後5年間が望ましい) ・鍵のかかる棚などに厳重に管理することが必要だが、必要な際にはすぐに確認できるよう配慮も必要。 ・保管部署を決め、個人情報として適切に管理する。
	電子データ	<ul style="list-style-type: none"> ・パスワード等による保護の上、関係者以外が閲覧できないフォルダに保存する。 ・保存期間は紙媒体と同様とする。
評価	基本は1年毎に、加えて関係機関との支援会を開催したときなど、必要に応じて適宜行う。	
様式について	「つながるノート」など既に活用している個別の教育支援計画の様式がある場合は、それらの活用を妨げるものではないことに留意する。また、様式に限らず、個別の教育支援計画作成、活用の趣旨は同一であることを踏まえ、家庭や関係機関との連携に向け、効果的な活用に取り組んでいくこと。	

個別の教育支援計画作成と活用(例)

4月

同意書



5月

個別の
教育支援計画作成
(当初記入分)



保護者と
確認

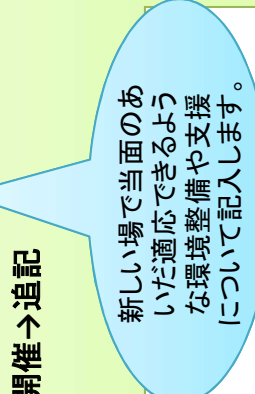
- 必要に応じて修正・追記を行う
- ・校内支援会を開く→追記
- ・保護者・関係機関を交えた会を開催→追記



本人、保護者の願いをよく聴いてシートを作成しましょう。

1月

(3月に卒業・卒業する
幼児児童生徒のみ)
個別の
教育支援計画
支援プラン作成



新しい場で当面のあいだ適応できるような環境整備や支援について記入します。

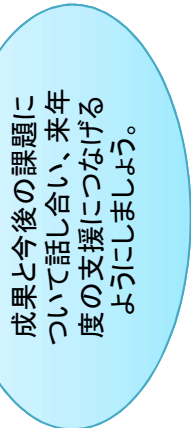
3月

年度内記入分
シート完成

確認書



学年末懇談等



成果と今後の課題について話し合い、来年度の支援につなげるようにしましょう。

長期的な視点で一貫した的確な支援を行うために



個別の教育支援計画について

- 1 個別の教育支援計画は、幼児児童生徒一人一人に必要とされる教育的ニーズを正確に把握し、長期的な視点で学校卒業後までを通して、一貫した的確な支援を行うことを目的に作成するものです。
- 2 作成にあたっては、本人や保護者の意向を踏まえ、学校と保護者や関係機関が連携し、児童生徒等の支援に関する必要な情報を共有します。
- 3 個別の教育支援計画については、個人情報の観点から適切に管理します。

作成の際に保護者に説明し、同意を得る。

同 意 書

うえのことについて確認し、在(園)学中は個別の教育支援計画を作成することに同意します。

年 月 日

全ての子どもに対応するため、「幼児児童生徒」としている。

幼児児童生徒氏名

所属園・学校名

保護者氏名

印

(記入例)

個別の教育支援計画

年度始めには、作成したものを保護者と確認し、その日付を記入する。
年度終わりには、全ての欄に記入したものを保護者と確認し、実際に確認した保護者の署名と押印をもらう。

確認書

別紙のとおり個別の教育支援計画の内容を確認し、了解しました。

幼児児童生徒氏名 _____

学年等	年	年	年	年	年	年
年度当初の確認日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
年度の最終確認日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
作成者氏名	担任等の氏名 を記入	印	印	印	印	印
学校長氏名		印	印	印	印	印
保護者氏名		印	印	その年度の最終確認 日に押印する。	印	卒園・卒業時には、下の同意欄 に署名と押印をもらい直接進学 先へ送る、または、保護者を通じ て進学先に渡してもらうなどし、 継続した支援ができるようにする。

卒園・卒業に際し、進学先へ個別の教育支援計画一式を送付することに同意します。

年 月 日

保護者氏名

印

基礎情報(フェイスシート)

変更・追記を適宜行い、年に1度保護者に確認する。

① 本人	ふりがな	こうち かつお		別	男・女
	氏名	高知 勝男		住所	高知市〇町〇丁目1-2
	生年月日	平成 20 年 1 月 3 日			
	療育手帳	A1・A2・B1・B2・ なし		身体障害者手帳	級・ なし
	精神障害者手帳	1級・2級・3級 なし			
現在利用している福祉サービス	あり・なし	ありの場合は事業所名・サービスを記入 よさこいはうす・放課後等デイサービス			
② 保護者	ふりがな	こうち いちろう		住所	同上
	氏名	高知 一郎		電話番号	08×-123-4567
	続柄	父			
緊急連絡先(氏名・続柄・住所・電話番号) 高知 五郎・祖父・高知市〇町×丁目2-3・08×-987-6543					
③ 家族構成	氏名	続柄	生年月日	必要に応じて別居・同居・連絡先	
	高知 一郎	父	S60年5月5日	同居	
	高知 花実	母	S60年5月6日	同居	
	高知 さくら	姉	H18年2月1日	同居	
④ 身体・健康に関わる特記事項 アレルギー、運動制限、手術歴等 ・花粉アレルギーあり(3月ごろ服薬あり)					

* 変更・追記した場合は、その箇所に(〇年〇月〇日追記・変更)と記入する。

卒業後または3年後の姿	
⑤ 本人の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんなところに遊びに行きたい ・勉強が分かるようになりたい
⑥ 保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・場面にふさわしい行動ができるようになってほしい

このシートは校内支援会に使う。年に1度保護者と確認。

可能な範囲で聞き取り、3年を目処に中長期的願いを記入する。

現在受けている外部機関の支援(通院・相談等を含む)			
分野	支援機関名	担当者名	診断・所見・支援の内容
⑦ 医療	〇〇病院	医師 香川 健二	自閉スペクトラム症(こだわり、触覚過敏がある)
⑧ 保健・福祉	よさこいはうす	鳴子 ゆり	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスを平日と土曜日に利用している。 ・来所時のスケジュールはカードを利用して知らせている。 ・夏休みには週3回平日9:00~15:00利用し、調理や公共施設の利用などに取り組んだ。(平成〇年9月5日追記)
各分野で行っている支援、できること等を書く。			
⑨ 教育	〇〇小学校3年生	学級担任 土佐みずき 通級担当 坂本 夏子	<ul style="list-style-type: none"> ・通級は週に3回、3時間。集団でのSSTと個別のSSTを主に行っている。スケジュールの変更で困ることがあるため、確認したり、スケジュール帳に記入することなどに取り組んでいる。 ・1学期の取組からスケジュール管理の大切さに気づき、スケジュールノートをよく見るようになってきた。2学期からは市販のものを利用する。(平成〇年7月19日追記)
⑩ 地域・その他	〇〇スポーツクラブ	担当 田中 高志	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週日曜日の午後、水泳に通っている。 ・7月から母親の送迎の関係で、毎週日曜日の午前に水泳に通うようになった。(平成〇年7月19日変更)

必要に応じて欄を調整してください。

* 変更・追記した場合は、その箇所に(〇年〇月〇日追記・変更)と記入する。

支援の計画

支援の必要な項目

生活面			社会面			身体機能面			学習面			
	(1)	(2)	(3)		(1)	(2)	(3)		(1)	(2)	(3)	
生活リズム				指示の理解	○	○		疾病・身体機能				各教科等
遅刻・欠席等				意思の伝達	○			見え方				読むこと
食事				人とのかかわり方	○			聞こえ方				書くこと
身辺処理(整理整頓等)				集団参加	○			子どもの支援が必要な項目、場面など、気になる箇所全てにチェックする。変化が分かるように記入する。(評価としても利用できる) この用紙を記入し始めて1年目に気になることは(1)に、2年目は(2)、3年目は(3)にそれぞれ○をつける。				
衣服の着脱	○	○		ルールの理解・遂行	○							
登下校・教室移動	○			感情のコントロール								
危険認知	○	○		注意の集中・持続								
その他				その他								

教育的支援				
	重点目標	支援の方法・内容	成果と課題	次年度に向けての引継ぎ事項
(1) 1年	例)場に応じた行動がとれるようになることを目的に、まずは自ら靴下が履けるようになる。	例)好きなキャラクターの絵のついた靴下を用意する。(家庭) 例)畳の間に上がるときには靴下を履くイラストを見せる。(放デイ) 例)靴下を履くイラストカードを作成する。(学校) 例)靴下を履けた日には褒めて連絡帳にシールを貼る。(学校)	例)キャラクターの絵がうれしくて履くようになってきた。(家庭) 例)イラストを見せるタイミングによって履いたり履かなかったりする。(放デイ) 例)イラストカードをよく見て履ける。(学校) 例)ご褒美シールを楽しみにしており、靴下を履くことに抵抗がなくなってきた。(学校)	例)カード等の視覚的支援が有効である。 例)タイミングに左右されないよう、必ず見える場所に設置するようにする。(放デイ) 例)ご褒美シールをもらえることが意欲につながる。
(2) 2年	このシートは校内支援会等で検討した内容について記入する。3年間を見通した計画を年度毎に記入、評価をする。 左の欄(1)～(3)は3年程度を目処に記入していくため。上の支援の必要な項目と連動して記入する。	連携機関が担う役割がある場合には、(医)(放デイ)などと記入する。	支援方法に沿って、やってみてどうだったかの評価を記入する。	学年末に保護者と確認する。継続した支援の方法について共有する。
(3) 3年				

必要に応じて欄を調整してください。

■支援プラン

◆入学後2か月間程度の本人・保護者の願い

本人	保護者
<ul style="list-style-type: none"> ・美術部に入学したい。 ・友達と仲良くしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性を理解した対応をお願いしたい。 ・春休みに担任と面談し、入学式の会場などを事前に見せてほしい。

◆入学後2か月間程度必要な指導及び支援の内容

【支援や配慮が必要と思われる場面の例】		
入学式 対面式 身体測定 スポーツテスト 遠足 宿泊研修 昼食 休み時間 教室移動 登下校 等		
入学後の2か月間程度必要な指導及び支援の内容・配慮事項等		
場面	予想される姿	対応
入学式・対面式	・初めての場所や担任に対してどのように接したら良いのかわからなかったり、式の時間的な目処や内容が分からなかったりすると、不安を感じて式に参加できないのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みのうちに、担任が本人や保護者と面談し、式の流れの説明や会場、着席場所の確認、困ったときに対応する教員の紹介等を事前に行う。 ・式の途中でトラブルがあった場合に対応する教員を決めるなど組織的に対応する。
教室移動	・校舎内の教室配置等が分かると、時間までに移動することができるが、場所が分からなかったり、初めて行く教室への移動は遅れることがあるのではないかな。	・校内を教員と一緒に行動して、教室移動のシミュレーションを行う。
身体測定・スポーツテスト	・身体測定やスポーツテストでは手順が分からずスムーズに取り組めないのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・順番や場所などの手順を具体的に示したプリントを渡す。 ・どうすればよいのか分かるために、友達を見るよう声を掛ける。
記入に当たっては、引き継ぎシートの他の例も参照ください。		
授業	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で板書が異なることから混乱し、ノートがとれなくなるのではないかな。 ・口頭での持参物や課題、活動の指示は聞き漏らすことがあるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で板書の仕方のルールを決めておく。 ・注意喚起し、指示は短く伝える。 ・学習の手順を板書等で示したり、視覚に訴える工夫をする。 ・補助プリントを作成する。 ・持参物等は必ず板書し、ノートに写したことを確認しておく。
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ・誤解や思い違いで友達とトラブルになることがあるのではないかな。 ・大きな音や騒がしいところでは、不快感が高まりやすく、言動が荒くなり、トラブルになるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や部活動で、お互いを理解し合う仲間作りを行っていく。 ・大きな音や騒がしさでしんどいときには、落ち着ける場所を決めておき、利用する際のルールを本人と決めておく。 ・トラブルがあった際は、どのような行動を取ることができたかなど振り返る時間を持つ。
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・作文や数学の文章問題など苦手な課題には取り組まないことがあるのではないかな。 ・漢字練習などドリル的な課題には、最後まで取り組むことができないのではないかな。 ・定期テストに向けて、計画を立てて学習をすることが難しいのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容を具体的に示す。 ・苦手な課題は量を少なくするなどのスモールステップで取り組むようにする。 ・中間テストの勉強のスケジュールを担任と立てる。

その他留意する事項

- ・学習面・生活面ともに、見通しをもつことで不安が軽減され、できることが多くなる。
- ・困ったことがあったとき、相談できる教員や相談しに行ける場所を決めておく。
- ・保護者は、新しい生活と学習に適應できるか不安に思っているので、学校での様子などを適宜伝え、連携する。

※このシートは、新入学2～3か月前に在籍園・学校等の教員で記載することが望ましい。

2 チェックリスト

〈学習面の困難に関するもの〉

		ない	まれにある	ときどきある	よくある
A「聞く」ことに関するもの	1	聞き間違いがある（例「知った」を「言った」など）			
	2	聞きもらしがある			
	3	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい			
	4	指示の理解が難しい			
	5	話し合いが難しい（流れが理解できず、ついていけない）			
B「話す」ことに関するもの	6	適切な速さで話すことが難しい（たどたどしい、早口）			
	7	ことばに詰まる			
	8	単語を羅列したり短い文で内容的に乏しい話をする			
	9	思いつくまま話すなど、筋道の通った話をするのが難しい			
	10	内容をわかりやすく伝えることが難しい			
C「読む」ことに関するもの	11	初めて出てきた語や、普段あまり使わない語を読み間違える			
	12	文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする			
	13	音読が遅い			
	14	勝手読みがある（「いきました」を「いました」など）			
	15	文章の要点を正しく読み取ることが難しい			
D「書く」ことに関するもの	16	読みにくい字を書く（字の形、大きさが整わない）			
	17	独特の筆順で書く			
	18	漢字の細かい部分を書き間違える			
	19	句読点が抜けたり、正しく打てなかったりする			
	20	限られた量の作文や、決まったパターンの文章になる			

〈学習面の困難に関するもの〉

		ない	まれにある	ときどきある	よくある
E「計算する」 「ことに関するもの」	21	学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい (三千四十七を300047や347と書く、分母の大きい方が 分数の値として大きいと思っている)			
	22	簡単な計算や暗算ができない			
	23	計算をするのにとても時間がかかる			
	24	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが 難しい(四則混合の計算、2つの立式を要する計算)			
	25	学年相応の文章題を解くのが難しい			
F「推論する」 「ことに関するもの」	26	学年相応の量を比較することや、 量を表す単位を理解することが難しい (長さやかさの比較、「15cmは150mm」など)			
	27	学年相応の図形を描くことが難しい (丸やひし形などの図形の模写、見取り図や展開図など)			
	28	事物の因果関係を理解することが難しい			
	29	目的に添って行動を計画し、必要に応じてそれを修正する ことが難しい			
	30	早合点や、飛躍した考えをする			

※『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』(平成24年 文部科学省)の質問内容をもとに作成

A~Jのいずれの項目についても、気になる様子が
同学年の子どもと比べて特にあるかないかをもとに考えます

〈行動面の困難に関するもの〉

			ない、 または ほとんど ない	ときどき ある	しばしば ある	非常に よくある
G 不注意であること	1	学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする				
	2	課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい				
	3	面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える				
	4	指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げられない				
	5	学習などの課題や活動を順序立てて行うことが難しい				
	6	気持ちを集中して努力し続けなければならない課題を避ける				
	7	学習や活動に必要な物をなくしてしまう				
	8	気が散りやすい				
	9	日々の活動で忘れっぽい				
H 衝動性があること	10	質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう				
	11	順番を待つのが難しい				
	12	他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする				
I 多動性があること	13	手足をそわそわ動かしたり、着席していてももじもじしたりする				
	14	授業中や座っているべきときに席を離れてしまう				
	15	きちんとしていなければならないときに、過度に走り回ったりよじ登ったりする				
	16	遊びや余暇活動におとなしく参加することが難しい				
	17	じっとしていない又は何かに駆り立てられるように活動する				
	18	過度にしゃべる				

※教育支援資料（平成25年10月 文部科学省）の記載内容をもとに作成

〈行動面の困難に関するもの〉

		いいえ	多少	はい	
J「対人関係やこだわり等」に関するもの	1	大人びている			
	2	周囲から「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている			
	3	他の者は興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている			
	4	特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない			
	5	含みのある言葉や嫌みを言われても分からずに、言葉通りに受け止めてしまうことがある			
	6	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある。			
	7	言葉を組み合わせ、自分だけにしかわからないような造語を作る			
	8	独特な声で話すことがある			
	9	誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す（唇・喉を鳴らす、咳払い、叫ぶ）			
	10	とても得意なことがある一方で、極端に不得意なものがある			
	11	いろいろな事を話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない			
	12	共感性が乏しい			
	13	周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う			
	14	独特な目つきをすることがある			
	15	友だちと仲良くしたいという気持ちはあるけれども友だち関係をうまく築けない			
	16	友だちのそばにいるが、一人で遊んでいる			
	17	仲の良い友人がいない			
	18	常識が乏しい			
	19	球技やゲームをするとき、仲間と協力することに考えが及ばない			
	20	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある			
	21	意図的でなく、顔や身体を動かすことがある			
	22	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の動作ができなくなることがある			
	23	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる			
	24	特定の物に執着がある			
	25	他の生徒たちから、排斥されることがある			
	26	独特な表情をしていることがある			
	27	独特な姿勢をしていることがある			

※『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』（平成24年 文部科学省）の質問内容をもとに作成

3 既存の情報を有効に活用する


最後に取組を進める上で活用できる冊子等を紹介します。ほとんどの内容はホームページ等からダウンロードが可能ですので、校内における特別支援教育の推進等にも活用してください。

ライフスキルサポートブック

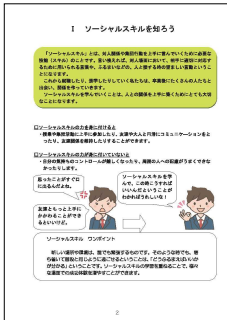
～ よりよく生きるために ～ Ver.1

提供元	高知県教育委員会 特別支援教育課
提供方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web 上に PDF 形式データを掲載 <p style="text-align: center;">(http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/2016051100048.html)</p>

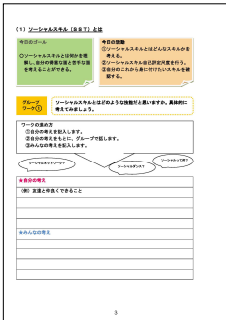
対人関係を上手に築いていくためのソーシャルスキルを含む、将来一人で生活を送っていくことができるためのスキル、『ライフスキル』を身につけるためのテキストです。子ども自身がこのサポートブックに目を通し、考えながら必要なスキルを身につけることができるようになっています。



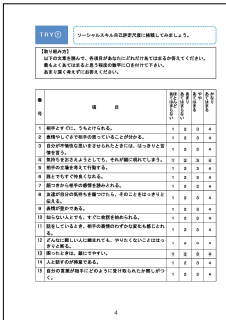
ライフスキル
サポートブック
～よりよく生きるために～
Ver.1



1 ソーシャルスキルを学ぼう



(1) ソーシャルスキルを学ぶ意義と目標



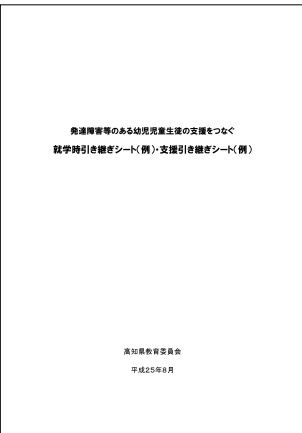
目標

発達障害等のある幼児児童生徒の支援をつなぐ

就学時引き継ぎシート（例）・支援引き継ぎシート（例）


提供元	高知県教育委員会
提供方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web 上に PDF 形式、Word 形式、Excel 形式データを掲載 <p style="text-align: center;">(http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/hikitugi.html)</p>

校種間をまたいで、それまでに積み上げた指導や支援を確実に次の学校へとつないでいくために、考えられる項目等をまとめたシート（例）です。Web には Word、Excel 形式のデータも掲載していますので、適宜ダウンロードし、活用ください。




発達障害等のある幼児児童生徒の支援をつなぐ
就学時引き継ぎシート（例）・支援引き継ぎシート（例）


高知県教育委員会
平成25年8月




(1) 就学時引き継ぎシートの目的



(2) 就学時引き継ぎシートについて



就学時引き継ぎシート



支援引き継ぎシート

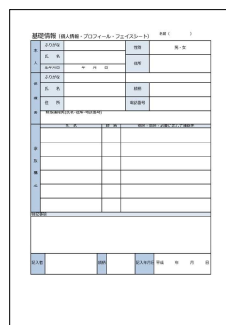
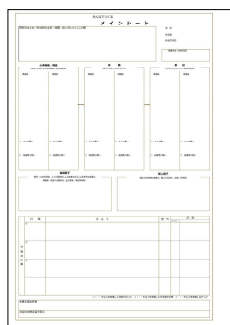
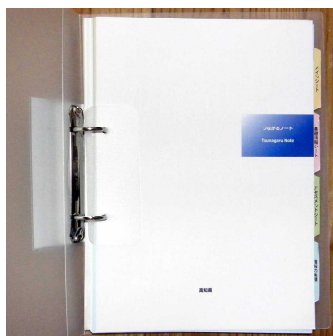
様式例、記入例だけでなく、取り扱い方など
引き継ぎシートに関するより詳細な説明も掲載
されています。

つながるノート

提供元	高知県地域福祉部 障害福祉課
提供方法	<ul style="list-style-type: none"> Web上に各シート様式データを掲載 (https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/060301/tsunagaru.html) 活用マニュアルのPDF形式データを上記Web上に掲載（冊子としても平成25年に各小中学校へ配布済み） <p>※発達障害の診断または疑いがある人のうち、利用を希望される人については利用申込書を提出することで高知県庁障害福祉課、療育福祉センター、各市町村等でファイルとして受け取ることが可能です。</p>

「つながるノート」は、発達障害のある人が、乳幼児期から成人期までを通して、様々な生活場面のニーズに応じた一貫した支援を受けられるようになるとともに、関係機関の連携を推進していくことを目的に高知県が作成し、高知県庁障害福祉課、療育福祉センター、各市町村等において、本人や家庭に配付しているものです。

「つながるノート」自体は学校が入手することはできませんが、「つながるノート」を構成する各シート様式は、Excel形式ファイルでダウンロードし活用が可能です。活用方法についてもWeb上に掲載していますので、「つながるノート」を活用した校内支援会の開催に役立ててください。



様々な資料や教材、様式等が公開されているので、ホームページ等で検索してみるといいよ。



インクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）

情報提供元 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

情報提供方法 ・Web上に掲載（http://inclusive.nise.go.jp/）

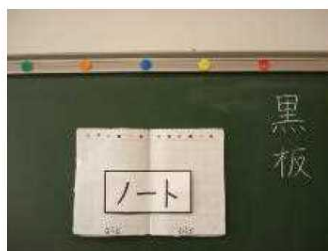
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所は障害のある子どもの教育の充実・発展に寄与するため、昭和46年に文部省直轄の研究所として設置された機関です。研究活動や研修事業を実施するとともに、Web（http://www.nise.go.jp/nc）等を通じて様々な情報発信を行っており、その一つがこの『インクルDB』です。

『インクルDB』にはインクルーシブ教育システム構築へ向けた相談コーナーや法令・施策等の用語解説コーナーなど様々な有益な情報が掲載されていますが、特に「合理的配慮」実践事例データベースは全国の園、学校から集められた実践例が掲載されており、一人一人の子どもに提供できる合理的配慮を検討する上で参考にできます。

令和2年2月末段階では436の事例が紹介されていますが、今後も事例は追加されていきます。是非一度閲覧いただき、目の前の子どもにできる合理的配慮の提供を含め、指導・支援の参考としてください。



対象児童生徒の障害種、学校種、学年を入力していくことで実践事例を閲覧できます。
(PDF形式データによるダウンロードも可能です。)



(写真2) 黒板の行を示すカラーシールとノートのカラーシール

オ 鍵盤楽器を五本指で演奏するための教具の工夫

鍵盤ハーモニカの五本指奏法の手の形の指導のために綿を入れたお手玉を手に取り付けて五本の指で弾く練習をした(写真3)。それまでは促しても一本指で弾いていたのが、五本指奏法で弾くようになった。



引用・参考文献

- ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月告示 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 平成29年7月 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月告示 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 平成29年7月 文部科学省
- ・ 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月告示
- ・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
平成30年3月 文部科学省
- ・ 教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～
平成25年10月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
- ・ 新版「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック
田中裕一監修 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会編著 東洋館出版

資料提供等協力校

香南市立野市小学校

香美市立山田小学校

南国市立十市小学校

南国市立大篠小学校

南国市立久礼田小学校

南国市立奈路小学校

南国市立香長中学校

いの町立枝川小学校

土佐市立波介小学校

須崎市立吾桑小学校

佐川町立佐川小学校

佐川町立斗賀野小学校

佐川町立黒岩小学校

高知県立中芸高等学校

高知県立城山高等学校

ご協力ありがとうございました!!

